

# まちの話題



あなたの周りの身近な出来事や話題をお知らせください。  
連絡先 市まちづくり推進室 ☎43・8113



## 中学生が福津の未来を考える

福津市子ども未来議会



▲生徒たちはプロジェクトごとに質問席に立ち、提言しました

市内3中学校の生徒会役員32人は「持続可能なまち福津にするために今の私たちにできること、これからの私たちにできること」というテーマのもとに、市が抱えるさまざまな課題や事象に対して解決方法などを考えてきました。その中学生の視点から取り組みを検討し、プロジェクトにまとめられたものを提言する「福津市子ども未来議会」を11月7日、市議会議場で開催しました。

市長、副市長、教育長に提言した議案は「市内全域でのWi-Fi環境の整備」「思い切り遊べる公園のリニューアル」「安心安全に暮らすための交通体系の整備」「ごみの分別収集に関する高齢化問題の解消」「祭りを通した地域活性化」「安全で安心な公園づくり」「東福岡駅周辺の活性化」の7つです。今年にはコロナ禍で取り組み期間が短い中、中学生は発表内容をグラフや表にまとめ、工夫して発表していました。未来を担う子どもたちのがんばりに期待が膨らみます。

## 旬の食材を創作料理に

あんずの里食堂に新しい店がオープン



▲自慢の料理の前で笑顔を見せる高石さん夫妻

空き店舗となっていた「あんずの里食堂」に、11月27日、高石雅博さん・純子さん夫妻が運営する「創作旬彩鍋玄香 LUNCH+CAFE」が開店しました。

フードコンサルタントとし

て飲食店の新規開業やメニューの提案などを手掛けたり、食品加工に取り組んだりしている雅博さんと市内でカフェを経営していた純子さんの第21回福岡デザインアワードで銀賞を獲得した「海の琥珀糖」は二人が開発した商品の一つです。他にも、海水を天日干しにして作った塩や自家製ベーコンなど、商品開発をしながら、旬の食材を使った創作料理を提供しています。雅博さんは「食事の提供はもちろん、地域の農水産物を使った今までにない商品を開発したい」と抱負を語っていました。

## ほぼ100%福津産のお味はいかが？

神興小学校で地産地消給食



▲1学年の給食の様子

市内の小中学校が毎日の給食で使用している野菜などの一部は、市内の直売所から納入している地元産のものです。中でも11月20日の神興小学校の給食は、ほぼ全て福津産の食材で作られました。献立は福岡漁港で水揚げされた鯛のみそ焼き、ブロッコリーの和え物、だぶ、麦ごはん、ミルク、牛乳。感染症対策として、子どもたちは向かい合わず、黙々と食べていましたが、おかわりを求めて多くの手が挙がり、大好評でした。

## 地元農産物が盛りだくさん

ふくつ軽トラ市が開催



▲ミカンの詰め放題で品定めをする親子

市認定農業者協議会が主催する「ふくつ軽トラ市」が11月21日に市中央公民館駐車場で開催されました。これは、毎年恒例の「みかん狩り交流会」が新型コロナウイルス感染症の影響で開催できなかつたため、代替策として企画されました。販売開始時刻前から大勢の買い物客が訪れ、ミカンや地元の農産物を購入していました。

## 市役所での火災を想定して

消防団・消防署による火災防ぎよ訓練



▲庁舎に向けて放水を行う署員(左)と団員(右)

春と秋は空気が乾燥し、火災が起こりやすい時期であることから、毎年、全国各地で火災予防運動が行われています。市では11月14日、この秋季火災予防運動の一環行事として、市消防団と福津消防署が合同で火災防ぎよ訓練を行いました。訓練では夜間に市役所庁舎で建物火災が発生したとの想定で、300m以上離れた距離を消防車数台を中継して放水を行い、火災の迅速な鎮圧のため、消防団と消防署の連携強化を図りました。

## 福津ば元気にするバイ!!

九州プロレスの福津大会



▲旭選手 飛び技を繰り出す選手▲

プロレスを通して元気を届けようと、九州各地で試合や施設の慰問などを行っている九州プロレスが11月15日、津屋崎体育センターで試合を行いました。豪快な投げ技や関節技に、抽選によって選ばれた約300人は拍手で声援を送りました。また、福津出身の旭志織選手も参戦し、あいさつでは地元での開催に思いを語っていました。